



【わずかな力で巨人を倒される神様】

聖書;第一サムエル 17章 41-49/ 暗唱:第一サムエル 17章45節

説教者: 鄭南哲牧師
(Rev. Jung nam-chul)

今日私たちは小さいと思うと、なんとなく劣等感を持ち、萎縮(いしゆく)して生活してしまう時があります。身長が低くて、年が若くて、能力がなくて、収入が少なくてなど小さいことを我々はきらい傾向があります。しかし、実際、我々の生活において意外に小さいことがもっと発揮される時があります。大きいことは小さいことから始まります。小さい力が集まって、繰り返されるともっと大きい力を発揮することができます。にっこりとわらうほほえみ、小さい身振り、些細な一言、些細な良い行い、些細な励ましが家庭を変え、教会を変え、社会を変え、この世を変える場合もあります。イエス様は御国のたとえ話の一つとして、カラシの種について教えてくださいました。わずかちいさい種はあまり目立たないし、なにもないように見えますが、種の中には命があり、一粒の種をまくと多くの実を結ぶことができます。そういうわけで小さい種には豊かな実と多くの可能性と未来が含まれているのです。すべては小さいことから始まります。今週から神様がこの世の小さい者ら、小さいことを通してどのように働かれるのかともに考えて見たいと思います。

〈聖書本文〉 - 一人が大切です。-

今日の旧約聖書の中第一サムエル17章は戦争の話です。ペリシテ人とイスラエル人との戦争です。ペリシテの巨人ゴリヤテという代表 戦士とダビデの勝負が今日のメインの話です。ゴリヤテは大きい人です。巨人です。彼に挑戦状(ちょうせんじょう)を申し出たダビデは少年であり、羊飼いであり、小さいものでした。しかし、結論から言うと小さいダビデが勝ちます。結局ダビデ一人の勝利がイスラエル 全体を勝利に引き上げるという内容です。もっと具体的に調べてみましょうか。

第一サムエル17章8-9節をみると、イスラエルの陣営(じんえい)はペリシテ人の巨人ゴリヤテという一人のため恐れています。ゴリヤテがイスラエルの軍隊に向かって一人を選んで自分と戦わせるようにと脅(おびや)かしています。自分と戦った人が自分を打ち殺すならペリシテ全軍隊がイスラエルの奴隷となると叫んでいます。逆にイスラエルから出た人が負けるとイスラエルの軍隊がペリシテの奴隷とならなければならない状況です。しかし目の前に立っている巨大な壁のような巨人ゴリヤテに誰一人進んで戦おうとする勇士はない状況でした。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん!

ここで注意深く考えてみたい単語(たんご)は‘ひとり’(8節)です。ひとりと全ペリシテ軍隊が関連されています。ひとりと全イスラエル 軍隊が関連されています。ひとりにすべてがかかっています。ゴリヤテひとりの提案を聞いているサウル王とイスラエルが恐れています。(本文11節)

いまイスラエルが非常に恐れ震えている理由はひとりがいないからです。その時神様がひとりを立たせます。彼の名前はダビデです。ところが、なぜ神様はダビデを選んだのでしょうか。ダビデは小さいものであることを聖書は強調しています。エッサイという人の八人の 息子の末っ子で、まだ少年だし、戦争の経験もない羊飼いに過ぎない者でした。しかし、だからこそ神様はダビデを用いておられたかも しれません。ダビデは小さい石で巨人ゴリヤテを倒し、ゴリヤテ一人が倒れることによりイスラエルの勝利をおさめることになります。

この出来事とおして我々が心に刻むべき大切な教訓はなんでしょうか。

一つ目、神様は小さい者とおして勝利をおさめることを喜んでおられるということです。

神様は自分が大きいと思う人を決して用いられません。神様は自分が小さい者だと思ふ謙遜な人を選んで用いられます。そして、もう一つ頭に入れておくべき事実は、神様が自分を小さい者だと思ふ人を選んだとしてもその人が高慢になるとその人を使えなくなってしまうということです。イスラエルの初代王はサウル王でした。ダビデが王になる前のサウル王も自分が小さい者だと思っていた時に王として選ばれました。しかし、彼は高慢になって神様の御言葉に従わなくなったとき神様は彼を見捨てられました。サウル王が神様に逆らった時サムエルが彼に言った言葉を聞いて見て下さい。第一サムエル15章17節です。“サムエルは言った。「あなたは、自分では小さい者に過ぎないと思っはいても、イスラエルの諸部族のかしらではありませんか。主があなたに油を注ぎ、イスラエルの王とされました。」(第一サムエル15:17)

神様が高慢になったサウル王を王位から退けながら次の王として選んだ人がダビデでした。

聖書はそのダビデが“末っ子”だったことを強調します。(第一サムエル17:14)。預言者サムエルがサウルの代わりに王になる人を選んで油を注ぐためにエッサイの家に行きます。その時みんなは当然格好もよく、十分資格があるだろうと思った長男エリアブが選ばれると思いましたが、神様は格好いいし、勇士であるエッサイの息子らをお選びになりません。その時、サム

エルがエッサイにまだ息子がいるのかと聞きます。するとエッサイは末っ子が残っていますが、人間的に考えた時に資格がないかと思っ呼ぶことすらしなかったかも知れません。しかし、神様はこの小さい者ダビデを選ばれ、油を注ぐようにと命じられます。(第一サムエル16章11-13節)

なぜなら神様は、ダビデが自らを小さい者として思われる謙虚な人であることをご存知だったからです。

ダビデは謙遜さを保つことができた人です。彼は神様の御前で自分を虫けらだと表現しました。

“しかし、私は虫けらです。人間ではありません。人のそして、民のさげすみです。”(詩篇22編6節)

羊飼いだっただけが王になった時も彼は神様の恵みを賛美しました。すべての勝利が神様にあることを告白し、忘れませんでした。

愛する信仰の家族のみなさん! どうして神様は小さい者を通して大勝利をさせようとされるのでしょうか?

そうすることにより神様の栄光が現されるからです。神様は自分を高くする者を低くさせて用いられます。神様は大きい者は小さくして用いられます。神様は強いものは弱くして用いられます。それが神様の原則です。

逆に、神様は低いものは高く上げてくださいます。小さいものは大きく持ち上げてくださいます。弱いものは強くしてくださいます。これがまさに神様の逆説の真理であることを覚えなければなりません。愛するみなさん、自分の存在が小さくて、自分の力が弱くて、持っているものが少なく、能力がないといって劣等感にとらわれないように気をつけてください。大きい者のような人と比べないようにしてください。むしろ自分の小ささを謙遜に変え、神様を頼り、神様の助けをもっと求めるチャンスとして用いる人こそ、神様の御前で、神様の助けによって大きい働きのために、大きく用いられる者になると信じます。

この出来事とおして心に刻むべき大切な教訓は何でしょうか?

二つ目に、小さい者が信頼されると大きい力を発揮することができます。

ダビデがゴリヤテと戦うことができたという自体が奇跡ではないでしょうか。巨人ゴリヤテの前でみんなが震え恐れている場にダビデが現われます。そしてダビデは正義の怒りを表します。‘いったいゴリヤテがだれかといっ生きておられる神の御名とその軍隊を侮辱させるのか’ときよい怒りをいだいて自分がゴリヤテと戦うと申し出ています。

サウル王はダビデの話聞いて彼を呼びます。サウル王の反応は当然始めは否定的でした。

第一サムエル17章33節, “サウルはダビデに言った。「あなたは、あのペリシテ人のところへ行って、あれと戦うことはできない。あなたはまだ若いし、あれは若い時から戦士だったのだから。」”

しかし、ダビデはサウル王を説得します。彼がどうやって父の羊を守ったかを。そして、神様が自分をどうやって助けてくださったのかを。その内容が第一サムエル17章34-37節の内容です。どなたか読んでくださいますか。

ダビデの話聞いていたサウル王は彼にゴリヤテと戦うチャンスを与えます。これは大変大きい冒険にまちがいありません。戦争の経験がまったくなかった幼(おさな)い少年にメイン選手として戦えるチャンスを与えたのです。サウル王が彼を信じてくれたのです。ここで、みなさん、我々が学ぶべき原則があります。それは信頼の原則です。

人は信頼してくれる人の期待に応じて行動します。小さい者でもだれかが自分を信じ、励ましてくれれば大きい力を発揮するようになります。事実ダビデを信頼して下さった方はサウル王の以前神様です。そしてサムエル預言者でした。

ダビデは神様に選ばされサムエルを通して油注がれます。その日以来、ダビデに神様の霊が強く働かれたと聖書は言っています。家のほかの兄弟たちもダビデを無視しました。しかし神様が彼を信じてくれたのです。サムエル預言者が彼を信じてくれました。サウル王も彼を信頼しています。ダビデがどうやってサウル王の信頼を得るようになったのでしょうか。

スティブンM.Rコビは信頼を得るのに 4つが必要だと強調します。つまり、'品性,力量,成果,動機' です。ダビデはこの4つを満たした人でした。まず、ダビデの品性をみてください。彼は父の羊一匹を守るために命をかけた。彼は誠実でした。誠実ほど信頼を得る品性もないでしょう。そして、彼はたとえ戦争の経験はなかったのですが、たくさんの戦う能力をつんできました。

ダビデが獅子と熊を倒して羊たちを守るほどだったのであれば、ゴリヤテを倒すことなんて不可能なはずはないことをサウル王も判断されたのではないかと思います。また人々に信頼を与えるのは力量です。どんなにいい品性を持っていたとしても、それだけでもすべてを信頼されるということはたやすくはないと思います。実力と力量が伴うべきではないでしょうか。私は私の妻がとつてもまじめで誠実な人であることをよく知っています。そうだといっ妻がとつぜん飛行機を運転したして、私に乗れといっ私は絶対に乗らないでしょう。

なぜですか。妻は飛行機を運転したこともないし、その力もないからです。ダビデは敵と戦って殺す戦争の経験はまったくありませんでした。しかし彼は命をかけて熊と獅子と戦いながら羊を守る成果を収めることができました。ですからダビデはすでに自分も知らないうちに戦いの技術と経験を十分つんできたことがわかります。ダビデがゴリヤテを倒す時、小さい石を使いました。彼は羊飼いでした。父の羊を守るために彼は石を投げることを何度も何度も繰り返して練習してきたのではないのでしょうか。ですからみなさん、わずかな技術でも繰り返して慣れさせれば卓越した技術まで至るように、反復(はんぷく)には力があ

ります。なんの隙間が見えなさそうだった、ゴリヤテでしたが、ダビデの目には獅子と熊に向かって戦うように、すぐさま隙間をみつけます。それはゴリヤテの額(ひたい)でした。ですから少なくともこの小石を投げることだけはだれに負けない技術と実力を持っていたと言っても間違いありません。

例) みなさん、最近なでしこジャパンがまたオリンピックに進出し、良い成績を収め、ふたたびサッカーの風がふいています。アジアを代表する選手として成長したパクジソン選手は彼が書いた本をとおして彼が学生ごろからどのように訓練してきたかを述べたことがあります。“私は 本当にサッカーをうまくなりかたかったです。しかし私は背も低く、足も短いし、体格も小さかったので、ほかの人と同じようにしては勝つことはできませんでした。それで私は練習むしにならなければならなかったです。練習する時少なくとも三千回以上ボールが足につかないと感覚がつかないという先生の話をしてつきり信じていました。すべての訓練が終わった後も私は毎日個人トレーニングをしました。短い距離を戦力で走りながらスピード感を高めました。自分が立てた練習量の目標に達(たっ)しないと眠ることもできませんでした。練習を終え、部屋に入って横になっている時もヘディングをしました。ほかのものと妥協しないで、ひたすら、自分と戦いながら練習の繰り返しでした。当時、いま休んでしまうと後の者になるという思いでいっぱいでした。”

ですから愛するみなさん! 日常の生活を無視しないでください。普段みなさんの生活で繰り返されていることをけっしてないがしろに 考えないでください。些細にみえていてもそれを誠実に繰り返し、続ける時それが実力となり、自分の力量になって神様にその部分において尊く用いられるチャンスとなれると信じます。些細なことを軽んじてはいけません。これらはのちに大きい事をなすのにかならず大きい力になると信じます。

そしてダビデは信頼を得られたのは彼の ‘動機’ があったからです。ダビデは自分の羊ではなく父が預けた羊のためにいのちをかけました。彼はゴリヤテとの戦いも神様の御名のために戦おうとしました。神様の栄光のために彼は戦おうとしました。(本文45節)どんな動機ですのか、どんな意図(いと)ですのか、がとっても大切です。神様もダビデの表を見ずに、その中心を見られたと言われました。これにダビデはさらに ‘献身’ 的な人でした。彼は大切なことに命をかけることができた人でした。サウル王が少年ダビデを信頼することができたのは彼のその献身的な姿ではないかとも思われます。なぜなら、だれもゴリヤテと戦うとしない状況なのに、いのちをかけて献身を見せたのがダビデだったからです。もしかするとサウル王はダビデの犠牲をとおして気を落としているイスラエルの軍事たちに刺激を与えようとしたかもしれません。しかし愛するみなさん! ダビデがどんなにいい品性と動機をもって、技術と力量を持っていたとしても、神様の助けがなかったなら、けっしてこのような勝利をおさめるという結果になるとは言えないと思います。

少年ダビデがどれだけ石を投げるのにすばやく、力があつたとしても人の額に打ち込まれるほどはけっしてできないことでしょう。しかし、ダビデが投げた石がゴリヤテの額に打ち込まれたと聖書は言っています。彼が投げた石が飛ぶ時神様が力を増してくださってたった一度で人の額に打ち込まれるようになったということを私たちは忘れてはいけません。ダビデは一人で戦争場に出たのではありません。ダビデのうしろに神様がともにおられたことを覚えなければなりません。力が少ない人は神様の御力を頂かなければなりません。ダビデは神様の力をこのように賛美しています。“まことに、主のほかにだれが神であろうか。私たちの神を除いて、だれが岩であろうか。この神こそ、私に力を帯びさせて私の道を完全にされる。(詩篇18:31-32)

メッセージをまとめます。

今を生きる私たちも日々数多くの戦いの中で生きています。霊的戦いも激しいです。我々をしきりに無気力にさせ、自己憐憫に陥らせる巨人のような壁にぶつかる時もたくさんあります。自分の力ではとうてい打ち勝つことができなさそうな強敵がたくさんあります。こんなとき我々はどうすべきでしょうか。自分の力に神様の力をまじ加えなければなりません。神様の力をたより、進むべきです。

自分のわずかな力に神様の力を増せば、我々が勝てないことはありません。乗り越えないことはありません。今日ダビデのように神様の御力の手をつかみましょう。すべての戦いは神様の御手にあります。

すべては小さいことから始まります。今日神様は小さい一人ひとり、わずかな力を用いて勝利に導かれます。

そして、兄弟同士、同じ家族同士、同じ兄弟姉妹同士で戦い、力をむだに使ってはいけません。

今日も主にあつてわずかな力でも一緒にあわせ、一人、わずかな考えでも見逃さないで、互いを信頼する信仰の共同体を続けてつくりあげていくクリスチャンプレイズチャーチのみなさんとなるよう主イエスキリストの御名によってお祈り申し上げます。アーメン!